

全体講評

まず、最初の筆者の考えを説明する問題は概ねできています。

次に「芸術の意義」について述べる問題ですが、意義を狭くとらえているところが気になります。おかしな答案は「音楽が犯罪の多い街や、震災の時に役だった。だから芸術には存在意義がある」という論法になっています。しかし芸術は「目に見える形で何かの役に立つこと」に存在意義があるのでしょうか？犯罪の減少に役立ったかどうかとは関係なく、誰かが「音楽を聞いて心動かされた」「美しい詩を読んで前向きな気持ちになれた」というだけでも十分存在意義があるのではないのでしょうか。それは数値や統計によって証明するようなものではありません。芸術の意義を「社会の中でこういうことに役立っている、数値でも示されている」という説明に力点を置きすぎていて無理やり感があるのです。結論の「芸術の意義は人の心を癒すところにある」というのはいいのですがそのために犯罪防止の事例を持つてくる必要があるとは思えません。芸術をもっと広い視点から考えてみましょう。

最後の問題は、近代以降の音楽史のとらえ方に誤りがあります。

18世紀前半まで…バロック音楽・権力者のためのもの

18世紀後半～19世紀…クラシック音楽・ブルジョア階級+市民に開かれ始める

20世紀…クラシック音楽の衰退・戦争によりクラシック愛好層が没落する

というのが本文の流れです。

音楽史を整理した上で「世界音楽」という観点から、音楽の在り方をとらえることになりませんが、出題者の言う「世界音楽」が何を指すのか今ひとつよく分かりません。いわゆる「ワールドミュージック」のことだと解して下に構成例を示しました。毎年のことですがこの学科の小論文は慎重に設問を読んで聞かれていることを外さないように解答する必要があります。なお、この問題に関しても「芸術がこういうことに役立っているから意味がある」という論法になっているのが気になります。

| 論述力…文章表現に誤りはないか、構成力はあるか | 説得力…適切な根拠を元に論じているか。具体的か。 | 創造性…借り物でないオリジナリティのある意見か | 読解力…課題文、図表を適切に理解できているか | 得点 | 合格目標点 |
|-------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------------|----|-------|
| B (A～E) | B (A～E) | C (A～E) | B (A～E) 課題文、 図表のある問題のみ | 61 | 65 |

書きなおす上での注意点

★それではどのように答案を構成するか1例を挙げてみます。

芸術の意義

・芸術は人間の生命維持には直接必要ない。しかし芸術のない生活は想像できないほど私たちと深く結びついている。

表現する側から・絵画、音楽、文学、舞踊など芸術はすべて感情や心にわき起こった思いを表現する方法である。芸術のない世界とは表現なき世界でありそれは砂漠のような無機質な世界である。

受け手側から・美しい絵画に心奪われたり、文学の一節に勇気づけられたりと芸術はそれを受け止める人に潤いをもたらす。

・芸術とは人間の感情に形を与え、人々の生活に彩を与える。人間が人間らしく生きるに不可欠な要素である。

西洋音楽史と世界音楽

・西洋音楽は18世紀後半に市民社会の成立とともにブルジョアから市民までを含む層にいわゆる「クラシック音楽」が普及した。音楽会に行くことや音楽雑誌、楽譜の出版が一般化した。しかし、20世紀に入り第一次大戦でクラシック音楽を愛好していた層が没落し、同時にクラシック音楽も衰退することになった。

・この時代までは欧米が世界の中心でありクラシック音楽こそが音楽であるという一極主義の意識が強かったが第二次大戦後、アジアや南米、アフリカなどの新興国が力をつけるようになり、世界の様々な民族や地域に根差す「世界音楽」が知られるようになった。

・例えば中国の二胡、南米のフォルクローレ、沖縄の三線などその土地の歴史や気候、風土から生まれた音楽はクラシックのように洗練されてはいないが素朴な味わいがある。

・こうした二胡やフォルクローレなどの演奏会やレコーディングが現代では各地で行われており、クラシック以外にも様々な「世界音楽」があふれ人々が愛好する時代になっている。